

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 萩原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

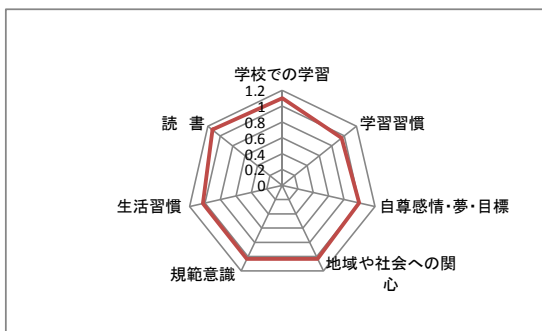
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っており、文章の中から必要な情報を見つけて読む能力や、言語についての知識・理解を問う問題の正答率が高かった。 ・手紙の構成を理解し、後付けを書く問題に課題が見られた。手紙を書く活動を行い、定着を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	漢字を正しく読むこと、ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることにおいて、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	手紙の構成を理解し、後付けを書く問題では、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っており、無解答率も低かった。 ・特に、書くことに関する問題については、全国に比べ正答率が高くっており、自分の考えを文章に表す力が付いてきている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、文の中から引用して書く問題では、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題では、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っており、どの領域においても正答率が高く、学習したことがしっかりと身に付いている。 ・無解答率は0%であった。児童全員に最後まで粘り強く問題に取り組もうとする意欲が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	商を分数で表す問題や、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題等、「数と計算」領域の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っている。特に、自分の考えを記述する問題については、全国と比べて、無解答の児童が少なく、正答率が高かった。 ・表やグラフの特徴を基に考察することや、目的に応じて適切なグラフを選択し、表現したりするところに課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された条件を基に、適切な式を立てることができるかを問う問題では、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する問題は、正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対する意識に高まりが見られた。また、「読書が好き」と回答した児童が多かった。</li> <li>・自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと感じている児童が多かった。</li> <li>・全国と比べ、1日に1時間以上ゲームをしている児童の割合が高く、家庭学習を1日に1時間以上行っている児童の割合は低かった。</li> <li>・「将来の夢や希望をもっている」と回答した児童の割合は5年生の時よりも上昇した。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的・対話的に学習に取り組めるように、生活場面や活用場面からの課題設定や、話し合い活動の充実等、算数科を中心に授業研究を進めていく。</li> <li>・「朝自習」や「萩原タイム」の中で、習熟プリント、読書、新聞記事の読み取り等の取組を継続し、学力の定着と活用力の向上を図る。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自主学習ノートの掲示や、よい取組をしている児童を表彰するなど、家庭学習に主体的に取り組めるようにしていく。</li> <li>・学習習慣の定着を図るために、家庭学習チャレンジハンドブックの活用を促す。取組の進捗を定期的に点検するとともに、家庭へのお知らせや協力を呼びかけるなど、啓発を行っていく。</li> </ul>
--